

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）  
（分担）研究報告書

口腔顔面痛関連アンケート調査

研究分担者 佐々木 啓一 東北大学大学院歯学研究科

研究要旨

本研究では、口腔顔面痛患者に対して質問紙調査を実施し、中枢性感作症候群との関連の評価することで患者の病態について検討することを目的に実施した。

研究協力者

日原 大貴 東北大学大学院歯学研究科

A. 研究目的

口腔顔面痛は口腔内や顔面に生じる痛みであり、歯や歯肉だけでなく、顎関節、咀嚼筋の痛みも含まれる。中でも痛みが慢性化しやすい顎関節症や舌痛症のような疾患は中枢性感作が背景にあると考えられるケースが多く存在する。以前の愛知医科大学の報告で、Central sensitization Inventory (CSI) を用いた慢性口腔顔面痛患者における評価で、様々の自己記入式の質問紙と一定の相関を持つことが示され、口腔顔面痛患者の中枢性感作スクリーニングツールとして有効である可能性が示されている。

そこで本研究では、症例数を増やして、より詳細に口腔画面痛患者の病態について評価、検討することを目的に東北大学病院口腔内科リエゾンセンターならびに咬合回復科で、CSI を含む質問紙シリーズを用いた調査を実施した。

B. 研究方法

東北大学病院歯科部門を通院中または通院歴の合う患者で、20 歳以上の檀上、口腔画面領域の慢性疼痛を有する患者を対象に、説明を行い同意の得られた患者を対象に実施する。質問紙は CSI 以外に、Numerical Rating Scale (NRS)、Pain Disability Assessment Scale (PDAS)：疼痛生活障害評価尺度、Hospital Anxiety and Depression Scale (HADS)：不安・抑うつ、Pain Catastrophizing Scale (PCS)：疼痛破局的思考（反芻、拡大視、無力感）、Pain Self-Efficacy Questionnaire (PSEQ)：自己効力感、Athens Insomnia Scale (AIS)：アテネ不眠尺度、EuroQol 5 Dimension 5 (EQ-5D)：QOL 評価を含

むものとし、回収された質問紙は匿名化し、愛知医科大学に提出を行い、解析を行う。

C. 研究結果

本研究は東北大学大学院歯学研究科研究倫理審査委員会の承認（受付番号：23620）を得て実施した。該当する患者に同意を得たうえで配布し、期間内に回収された質問紙は 16 例で、一部を愛知医科大学に送付し、追加データとして共同で解析を実施した。

D. 考察

症例数は少ないもののデータを追加できたことから、CSI を用いた口腔顔面痛患者の中枢性感作の評価の詳細な解析に寄与する結果であるが、今後も継続して調査を実施することで、症例数を増して検証を行う必要がある。

E. 結論

口腔顔面痛患者の中枢性感作の評価に寄与するデータ収集を行った。

F. 研究発表

1. 論文発表  
なし
2. 学会発表  
なし

G. 知的財産権の出願・登録状況  
（予定を含む。）

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし